

学会企画

学会企画 1 ランチョンミーティング「困りごとを共有しよう Part2 ～選択的夫婦別姓制度に関する学協会連絡会アンケート結果～」

ダイバーシティ推進委員会

コーディネータ:佐藤 宣子(担当理事, 九州大学)、村上 拓彦(担当主事, 新潟大学)

開催日時:3 月 17 日(火)12:00-13:00 会場:中ホール 300

対面開催、録画公開なし

日本森林学会が幹事を務めた男女共同参画学協会連絡会において選択的夫婦別姓に関するアンケートが実施されました(7582名の回答)。アンケートには、日本森林学会会員からも協力をいただき、結果は第23回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムにおいて報告されました。本ランチョンミーティングは、アンケートの内容を会員と共有することを目的として実施します。旧姓通称利用に関する男女別年齢別の実態とトラブルの種類などについての結果とともに、2500件におよぶ自由記述から導かれた分析結果についても紹介します。

日本森林学会第 137 回大会 学会企画

ランチオンミーティング

困りごとを共有しよう Part 2 ～選択的夫婦別姓 制度に関する学協会連絡会アンケート結果～

男女共同参画学協会連絡会が実施したアンケートの内容を森林学会会員と共有することを目的としています。旧姓通称利用に関する男女別年齢別の実態とトラブルの種類などについての結果とともに、2500 件におよぶ自由記述から導かれた分析結果についても紹介します。

場所: つくば国際会議場 中ホール 300

日時: 3 月 17 日 (火)

時刻: 12:00 – 13:00

★参加申込不要・参加費無料

お弁当＆お茶 (500 円) のみ要予約

↓ (3 月 8 日 (日) 締切) ↓



問い合わせ先：ダイバーシティ推進委員会
(diversitypromotion@forestry.jp)

主催：



一般社団法人

日本森林学会

The Japanese Forest Society Since 1914

後援：



男女共同参画学協会連絡会

学会企画 2 映画上映会『越後一山に生かされた日々』

林業遺産選定委員会

コーディネータ：泉 桂子(担当理事、岩手県立大)、高田乃倫予(担当主事、岩手大学)

開催日時：3月18日(水)15:00-18:00 会場：404

日本森林学会では学会100周年を記念して2013年度から林業遺産選定事業を継続し、現在53の遺産が指定されている。しかし、その学会員や社会にたいするその周知度は十分ではなく、各地には森林・林業関連の「宝」がまだまだ相当数存在するものと思われる。

本企画では、林業遺産選定事業の周知と遺産応募の機運向上、学会員相互の交流を目的として、森林・林業を対象とした映像作品を上映する。学会大会開催地が関東であることから、新潟県で撮影されたドキュメンタリー映画『越後奥三面』を選定した。当作品は記録映画作家・映像民俗学者として知られる姫田忠義ひきいる民族文化映像研究所(民映研)によるもので、オリジナル版は1984年製作、本企画ではデジタルリマスター版(2023年)を放映する。上映時間は145分を予定している。

参加申込は不要で、無料、入退室、声出しは自由としている。会場では参加者同士の交流が図れるよう、飲み物を用意する。ご関心のある方はお知り合い同士お誘い合わせの上、是非ご来場頂きたい。

学会企画 3 第 13 回高校生ポスター発表表彰式および高校生対象の大学ツアー

中等教育連携推進委員会

コーディネータ:太田祐子(担当理事, 日本大学)、佐橋憲生(担当主事, 日本大学)、高橋純子(大

会運営委員会, 筑波大学)

開催日時:3月18日(水)表彰式 14:15～15:00 会場:Leo Esaki メインホール

大学ツアー15:00～17:00

高校生ポスター賞受賞校の発表と表彰式を行います。申し込みは不要です。
表彰式終了後に希望者を対象に「高校生対象の大学ツアー」を実施します。
大学生が研究室や研究施設などを案内します。希望者は以下の QR コードよりお申し込みください。

申し込みはこちらから→
<https://forms.gle/G4Z3G5Su8jPywWAS6>

表彰式および大学ツアーのスケジュール

- 14:15～15:00 表彰式（森林学会会長からの総評）
- 15:00～17:00 「高校生対象の筑波大学ツアー」(オプション)
- *希望者のみ



第 13回 高校生ポスター発表 学校名・発表題目

表彰式などを 3 月 1 8 日（水）14:15 から 行います。参加校の生徒の皆さんはご参加ください。

発表番号	学校名	発表題目
KP-1	北海道士幌高等学校	持続可能な地域環境を目指して～防風林の未利用資源活用～
KP-2	北海道帯広農業高等学校	美しさ・安全性・実用性～地域と共生できる里山づくりへの挑戦～
KP-3	宮城県仙台第三高等学校	青森県深浦町の十二湖周辺における植生の経時的変化
KP-4	宮城県仙台第三高等学校	仙台三高等学校林「時習の森」の特殊性にせまる！
KP-5	宮城県大河原産業高校	Let's SAUNA ～汗がつなぐ C L T の輪～
KP-6	宮城県大河原産業高校	心繫～メープルシロップを活用した地域創造プロジェクト～
KP-7	山形県立米沢興譲館高等学校	環境の変化に伴う樹木の窒素吸収速度の変化
KP-8	茨城県立下館第一高等学校	ミヤマザクラの全個体調査 -茨城県における絶滅危惧植物-

KP-9	茨城県立日立第一高等学校	納豆菌によるコフキサルノコシカケの繁殖抑制効果について
KP-10	茨城県立日立第一高等学校	モジホコリの記憶能力について
KP-11	作新学院高等学校	きのこ類の同定と純粋培養 - きのこ類を介した森林再生の可能性 -
KP-12	栃木県立矢板東高校	矢東の樹木マップをつくろう！
KP-13	國學院大學栃木高等学校	森林は洪水を守れるか
KP-14	群馬県立勢多農林高等学校	新里のサクラソウ群落の調査および保全活動
KP-15	群馬県立勢多農林高等学校	桜山公園のフユザクラ保全活動～開花観測と保存樹木の茎頂培養～
KP-16	群馬県立尾瀬高等学校	武尊山登山道沿いの植生調査～武尊山東西の比較とササによる影響を調べる～
KP-17	群馬県立尾瀬高等学校	玉原高原におけるニホンジカの影響調査
KP-18	正智深谷高等学校	クビアカツヤカミキリはお気に入りの木を見つけて飛来する
KP-19	東京農業大学第三高等学校	リター分解過程における土壌動物の有用性～バイオ炭散布との関係性を探る～
KP-20	東京農業大学第三高等学校	バイオ炭散布によってクヌギの根の形態はどのように変わるのか
KP-21	東京都立国分寺高等学校	落合川のマイクロプラスチック量の測定と環境の保全について
KP-22	東京都立国分寺高校	見えざる飛翔の軌跡：春夏秋冬朝昼晩、カラスバトのルーティンを暴け！
KP-23	海城中学高等学校	赤谷の森での探究活動～森林の機能とスキー場の植生～
KP-24	藤沢翔陵高等学校	米文化を身近にするための農業調査ー土作りから米販売までの参与観察ー
KP-25	藤沢翔陵高等学校	花の品質を向上させるための条件の検討 -環境整備とコミュニティの構築-
KP-26	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校・附属中学校	きのこのひだはカビの成長を阻害するのか
KP-27	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校・附属	タケ類てんぐ巣病の感染経路の模索

	中学校	
KP-28	神奈川県立吉田島高等学校	皆伐施業・将来木施業の計画と素材及び製品生産量把握
KP-29	神奈川県立吉田島高等学校	低コスト再造林から考える吉田島式造林法の試行
KP-30	岐阜県立大垣西高等学校	岐阜県西濃地域に生息するニホンジカ集団に関する生態調査Ⅲ
KP-31	不二聖心女子学院高等学校	里山音楽園
KP-32	不二聖心女子学院高等学校	不二果樹園
KP-33	名城大学附属高等学校	持続可能な森林と和楽器文化の共創：三味線の外国産材と国産材に着目して
KP-34	京都府立嵯峨野高等学校	竹の音特性 ～竹稈の位置による打撃音の差異及び竹製リードの作製～
KP-35	京都府立嵯峨野高等学校	京都府丹後半島の森林小流域における土壌生成に関する研究
KP-36	神戸大学附属中等教育学校	RBMw による表層崩壊防止効果の分析―樹種特性と断幹に着目して―
KP-37	高知県立高知農業高等学校	森林認証制度 project ～上穴内演習林の価値の創造を目指して～
KP-38	熊本県立八代農業高等学校 泉分校	故郷に豊かな森林環境を！～「高校生ハンター」が挑戦する野生鳥獣害対策～
KP-39	熊本県立矢部高等学校	持続可能な森林づくり ～どんぐりで広げる水源林保全と国土保全の輪～
KP-40	熊本県立矢部高等学校	林福連携で目指す私たちの挑戦！～通潤パズルで地域の人々を元気に～
KP-41	京都府立北桑田高等学校	Potential of wood products～未来に繋げる京都府内産木材の利用～

学会企画 4 帰国留学生元学生会員による国際交流ポスター発表(International Exchange E-poster Presentation by Ex-Overseas Student Members)

国際交流推進委員会

コーディネータ: 中静透(担当理事、森林総研)、大久保達弘(東北農林専門職大学)、大田真彦(長崎大学)、藤原敬大(九州大学)、板谷明美(三重大学)、櫃間岳(森林総研)

ポスター発表(3月17-18日), 会場:102

日本森林学会には、多数の留学生が学生会員として所属し、発表を行なっている。しかし、会費負担等の関係から、帰国後は本学会を退会し、関係が疎遠になる場合が多い。

本企画では、対面開催にオンラインを加えたハイブリッド形式のメリットを生かし、すでに本国に帰国した留学生元学生会員への学会参加・発表機会を提供する。目的としては、学位取得後の研究フォローアップ、学会発表実績の提供および帰国留学生元学生会員同士や日本人会員との国際共同研究の萌芽形成を想定している。

参加者から事前に提出されたポスター発表を、学会の全日程、非同期(オンデマンド)形式で公開する。現在日本の大学に所属している留学生学生会員や日本人会員(元留学生指導教員など)にも、積極的にポスター発表を通じて国際交流して頂きたい。

○ International Exchange E-poster Presentation by Ex-Overseas Student Members

Coordinator: International Exchange Promotion Committee (Nakashizuka Tohru (Director of International Exchange, Forestry and Forest Products Research Institute), Ohkubo Tatsuhiro (Tohoku Professional University of Agriculture and Forestry), Ota Mashiko (Nagasaki University), Fujiwara Takahiro (Kyushu University), Itaya Akemi (Mie University), Hitsuma Gaku (Forestry and Forest Products Research Institute))

17-18 March

Aim of this event

There are many active international student members in The Japan Forest Society. However, due to the burden of membership fees and other factors, many of them withdraw from the Society after returning to their home countries, and the relationship with the Society often becomes estranged. The purpose of this project is to provide an opportunity for former international students who have already returned to their home countries to participate in the conference and make presentations, using online methods. The purpose of this event is to follow up their research after obtaining their degrees, to provide them with an opportunity to present their research at academic conferences, and to form the seeds of international joint research among former international student members and with Japanese members.

The poster presentations submitted in advance by the participants will be opened to the public on site and an asynchronous (on-demand) format during the entire meeting.

We hope that international student members who currently belong to universities in Japan and Japanese members (ex. former supervisor of international students) will actively participate in the meeting.

Program

- Poster Presentations: All days through an asynchronous (on-demand) format

学会企画 5 第 27 回 IUFRO 世界大会 2029 年ケニア大会に向けて

企画委員会

コーディネータ:井上真理子(担当理事、森林総研多摩)、北原文章(担当主事、森林総研)

企画・協力 IUFRO-J 事務局、JICA、林野庁

ポスター発表(3月17-18日), 会場:102

IUFRO(国際森林研究機関連合)は、1892年に設立した森林科学者の国際ネットワークです。IUFROは、Interconnecting Forests, Science and People”をテーマに掲げ、参加国125か国以上(加盟組織600以上)、科学者15,000以上が参画しています。世界大会が5年ごとに開催されており、第26回大会は、2024年にスウェーデン(ストックホルム)で開催されました。次回の第27回大会は、2029年にケニア(ナイロビ)で開催されます。国際的な研究活動の活性化を図るため、今回の学会企画では、IUFRO第27回世界大会に向けて、IUFROおよびケニアについて、ポスターで紹介したいと思います。

紹介内容(予定)

・IUFRO第27回世界大会紹介、IUFRO-J紹介(協力:IUFRO-J事務局、IUFRO本部、IUFRO世界大会2029事務局)

・ケニア紹介(協力:森林総合研究所 林木育種センター)

・ケニアでの取り組み紹介(協力:林野庁計画課海外林業協力室、JICA)

森林白書(ケニア森林公社)の紹介、ケニア森林プロジェクトヒストリーなど刊行物の紹介
ビデオ紹介 ”School Lunch-Tree Growing Club Forest Carbon Project”

学会企画 6 「“あの”会社・組織の森林活動」

コーディネータ: 正木 隆(日本森林学会会長、近畿大学)

ブース展示(3月17-18日), 会場:102

近年、グローバル企業や国際的な環境団体が、日本国内においても森林保全や生物多様性の保全に関わる取り組みを活発に進めています。人々の間で環境への関心が高まる中で、これらの企業・環境団体が事業活動と両立させながら持続可能な社会の実現に貢献しようとしている姿勢は、単なる社会的責任の遂行にとどまらず、先進的な科学的知見や技術の導入、地域との協働の新たな形として注目すべきものがあります。

そこで、今回の展示企画「“あの”会社・組織の森林活動」では、今回御縁をいただいた、一般にも広く知られている企業・環境団体をお招きし、日本各地で行われている森林や環境に関する活動の一端をご紹介します。出展してくださるのは以下の6企業・組織です。

- トヨタ自動車株式会社(「トヨタの森」)
- 富士通株式会社
- 大成建設株式会社
- サントリーホールディングス株式会社
- 三菱電機株式会社
- 公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWF ジャパン)

これらの企業・環境団体は、それぞれの専門性や立場を活かしつつ、森づくり、環境教育、技術開発、カーボンオフセット、協働型保全活動など、多様なかたちで日本の森林との関わりを深めています。本企画では、それらの取り組みについて、パネル展示や配布資料を通じてご紹介します。

森林の学術研究とは異なる視点から現代の森林保全の現場を垣間見る機会として、また森林と社会とつながりが多様化している現状を再認識する場として、ぜひご覧いただければ幸いです。